

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 21 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2011～2015

課題番号：23251005

研究課題名(和文) アフリカ在来知の生成と共有の場における実践的地域研究：新たなコミュニティ像の探求

研究課題名(英文) Engaged Area Studies in the Arena of African Local-Knowledge Formation and Sharing: Seeking for the new images of community

研究代表者

重田 眞義 (SHIGETA, MASAYOSHI)

京都大学・アフリカ地域研究資料センター・教授

研究者番号：80215962

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 39,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究計画では、アフリカにおける「新たなコミュニティ」像を求めて、学際的関心をもつエチオピアの研究者と実務者が加わり、エチオピア南部諸民族州において延べ30人が参画して組織的共同研究の円滑な運営を配慮した総合的地域研究プロジェクトを実施した。プロジェクトを通じて「在来知」概念の明確化と共有をはかり、地域社会にみいだされた課題を4つの問題群(環境・生業、保健・健康、教育・共生、文化・創造)に分類してそれぞれの課題を横断する関心の系(生成系、共有系、創造系)にそった在来知の実相を解明するためのフィールドワークに基づく実践的地域研究をおこない、研究の成果を広く公開するとともに地域社会と共有した。

研究成果の概要(英文)：This project was an integrated Area Study in which over 30 researchers and practitioners from Ethiopia and Japan participated for action-oriented field research. In the process of research, members shared the concept of “Local Knowledge (ZAIRAICHI) and contributed to the further clarification of its definition.

The project team was composed in four groups; (1) environment and livelihood, (2) health and welfare, (3) education and coexistence, and (4) culture and creativity. Each group had three common interests to analyze the set of data looking at its generation, sharing and creation of local knowledge.

The findings of the research project have been actively presented not only at the international academic conferences and journals but also shared with local communities at the exhibitions organized at community-based museum.

研究分野：地域研究、民族学、民族植物学

キーワード：在来知 コミュニティ 実践的地域研究 エチオピア 生業実践 地域資源 文化の創造 在来技術

### 1. 研究開始当初の背景

アフリカにおける「コミュニティ」の研究は、農村や牧畜社会など伝統的社会における共同体の制度や組織を扱うものと、都市に多くみられる非伝統的な集団（例えば市民社会、サブカルチャー集団など）を対象にした2つの領域に大別される。しかし、近年このような伝統-非伝統の対立的な見方は、現実の人の集まりとその社会的な行為=実践を反映しておらず、特にコミュニティの属性として社会組織、血縁、場所などを強調する「古いコミュニティ」観は有効ではないと考えられるようになった。

コミュニティとは構造や文化的価値よりも実践によって定義されるというブルデューの構築主義的立場をとれば、問題にすべきは、その集まりに対する人びとの帰属感である。換言すれば、コミュニティを「空間的に固定され、特定の社会制度に対応するもの」とらえるよりも、社会的帰属を対話的で公共的な出来事として想像し経験する（コミュニティの一表現）様式」（ジェラード 2006）と理解することが肝要であろう。

このようなとらえかたは、制度的につくられた固定的な境界の存在を前提としないという点では、「実践コミュニティ」（レイヴ&ウェンガ-1993;田辺 2002）の概念と近似している。

本研究においても、「コミュニティ」を人びとが帰属する実体と考えるよりも、特定の状況や分野で機能する人間の参照点として概念化するほうがよいという立場をとる。そのうえで、生態・社会・文化に根ざした地域の固有性を理解するという地域研究の基本的アプローチをもとに、地域が直面する現代的諸問題を研究課題として発見し、「新たなコミュニティ」の諸アクターと協働して、それら課題への実践的な回答を究明してゆく。

実践的地域研究は、フィールドワークの過程でみえてくる現実問題に対して、その当事者としての意識をもち、共感に基づいて理解し、かつ政治的な立場性も配慮しながら参与していくという方法論的实践である。（重田ほか 2008）

### 2. 研究の目的

本研究計画「アフリカ在来知の生成と共有の場における実践的地域研究：新たなコミュニティ像の探求」（Engaged Area Studies in the Arena of African Local-Knowledge Formation and Sharing: Seeking for the new images of community）の目的は、現代アフリカに生きる人びとがより良き生活のために行う様ざまな実践の場（=新たなコミュニティ）の特質を、当事者意識を備えた研究者を含むアクターが参与する過程を通じて明らかにしていくこと（=実践的地域研究）であった。そのために、「新たなコミュニティ」の場において、在来知が生成し共有されていく過程とその機序を長期にわたる



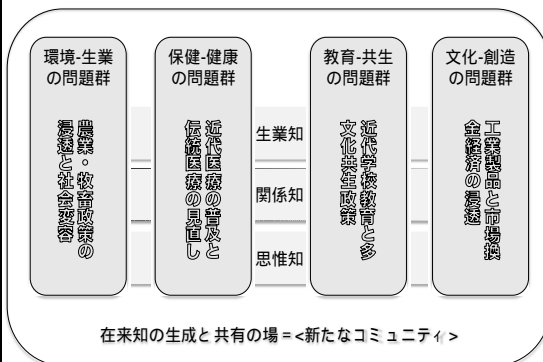
参加型フィールドワークによって解明することを目指した。

### 3. 研究の方法

本研究は、アフリカにおける「新たなコミュニティ」像を求めて、学際的関心を持つ我が国とエチオピアの研究者に地域の実務者が加わり、組織的共同研究の円滑な運営を十分に配慮して総合的な地域研究プロジェクトとして実施した。

複数のメンバーが4つの問題群に分類した8つの研究対象事例を選定して、5年にわたる集約的なフィールドワークと、定期的な研究会と現地ワークショップをおこなった。各問題群を横断する関心の系として、それぞれのコミュニティにおける在来知の「生成」とその「共有」を通じた「発展」の営みという3つの系をたてて、問題群の責任者がとりまとめ役を兼ねることによって、事例研究の連携をはかった。

実践的地域研究のアプローチをとることにより、研究終了後の成果だけでなく、地域社会への成果の還元を通じた貢献と、長期的なつながりを開始時点から意識した課題設定をとった。



### 4. 研究成果

本研究計画の成果として、在来知概念の理論的精緻化をおこなうとともに、エチオピアにおいて在来知の生成と共有の現場に参加した研究者による、学術的な報告と現地での実践的な活動および日本でのアウトリーチ活動があげられる。

#### (1)平成 23 年度の研究成果

在来知が生成し共有される場に見いだされる上記の4つの問題群に対して研究グル

ープを組織して、日本とエチオピアの研究者・実務者が共同してフィールドワークをおこなう体制を確立した。京都に事務局をおいて研究の円滑な運営をおこなうこととした。

初年度は、教育-共生および文化-創造の問題群に関して南部諸民族州南オモ県におけるフィールドワークを実施した。教育-共生の問題群では、農牧社会に見られる女子学校教育の問題に関して、コミュニティにおける女性の社会的な立場や役割に注目した。この研究成果は博士学位論文(地域研究)として最終年度(H27)に提出された。文化-創造の問題群では、南オモ県にある地域博物館と地域住民との連携により参加型の展示をおこなう準備をすすめた。

研究の理論面に関しては、在来知の新たな概念定義を広く学界に周知し、本研究計画の内容を紹介するために、米国民族生物学会において研究発表をおこなったほか、京都において、日独米仏の研究者を招いて国際フォーラム(Emerging Approach to Understanding Gender-based Knowledge and Techniques in Africa)を開催し、在来知と在来技術を擁するコミュニティ研究にジェンダーの視点を導入する研究の試みを討論した。その成果はAfrican Study Monographsの特集号として出版した。

#### (2)平成 24 年度の研究成果

環境-生業および保健-健康の問題群に関するフィールドワークを開始した。環境-生業の問題群では、栽培植物遺伝資源の農民参加型保全の取り組みについて実践的地域研究のアプローチを用いて研究を開始した。保健-健康の問題群については、南オモ県南アリ郡における高齢者のケアに関するコミュニティの社会関係について参与型の研究をはじめた。この成果は、博士学位論文(地域研究)としてH27年度に提出された。

初年度の研究成果をもとに国内学会での成果発表を開始した(日本ナイル・エチオピア学会、日本アフリカ学会)。また、仏で開催された国際民族生物学会において、研究代表者と研究協力者が発表をおこなった。また、第18回国際エチオピア研究学会において在来知を主題にしたセッション(Local Knowledge, Livelihood, and Development on the Move)を企画して、エチオピアと伊の研究者の参加を得て成果を出版した。

アウトリーチ活動の一環としてアフリカ地域研究資料センターと共催した公開講座において一般向けに研究成果を平易に紹介したほか、より実践的な地域研究を念頭においたフォーラム(実践的地域研究からBOPビジネスへ)を開催した。

#### (3)平成 25 年度の研究成果

この年度より、Facebookのグループ機能の活用を本格化させ、4つの問題群を横断する3つの関心系(生成系、共存系、創造系)に

沿った知見の効果的な共有をすすめた。

国内学会(日本ナイル・エチオピア学会、日本アフリカ学会)での成果発表を継続したほか、カウンターパート研究機関のアジスアベバ大学エチオピア研究所と共催して第1回エチオピア国際博物館シンポジウムを組織して在来知の生成と共有の場として地域博物館の有効性を指摘する基調報告をおこなった。また、京都において国際ワークショップを開催した。この年度からエチオピアから共同研究者を招き在来知研究に関するセミナーを2回開催した。

#### (4)平成 26 年度の研究成果

「新たなコミュニティ」像を求めて、エチオピアの研究者・実務家とすすめてきた研究の成果を、実践の段階にすすめるための成果発表とアクション指向の研究活動をおこなった。

国内外の学会において成果を発表したほか、日本アフリカ学会創立50周年記念大会において在来知研究セッションを組織して5名が報告をおこなった。また、独英エチオピアから研究者と博物館実務者を招いて在来知をめぐるグローバル化とエチオピアにおける在来牛耕技術の変遷に関するセッションを頭脳循環プログラムが主催する国際シンポジウムのなかで組織した。

実践的地域研究の成果としては、JICAと共催して、在来知とコミュニティの参加型開発をめぐる国際シンポジウムをアジア地域研究者とエチオピアからの研究者を招いて実施した。在来知研究の成果が、エチオピアにとどまらずアジア、アフリカの諸国における開発実践の場で活用できる可能性が確認できたことは大きな成果であった。このシンポの成果出版は現在進行中である。

アウトリーチ活動として公開講座を開いたほか、より実践的な地域研究を念頭においた成果の展示を京都大学総合博物館において実施した。

#### (5)平成 27 年度の研究成果

研究成果の最終的とりまとめのために、国内研究会を開催した。また、仏の国際高等研究院(EHESS)のパリ本部およびマルセイユ支部において招待講演を3回おこない、日本発の在来知研究をZAIRAICHIの名称とともに、理解してもらおう機会を得た。

最終成果報告会として、2015年(H27)10月アジスアベバにおいて、「アフリカ潜在力としての在来知 Africa Potential as Local Knowledge」と題する国際フォーラムを、アフリカ諸国とエチオピア国内および日本から26名の参加者をえて、アジスアベバ大学エチオピア研究所と同社会科学部社会人類学科およびアフリカ東洋研究センターとの共催によって開催した。このフォーラムの内容は2016(H28)年度中に英文出版物として公開される。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 89 件)

ARII, Haruka, How Women Choose Their Schooling in Their Life Course: The Case of Maale, Southwestern Ethiopia, *Nilo-Ethiopian Studies*, 査読有、21 巻、1-14

有井 晴香、エチオピア農村に生きる女性のライフストーリー：近代学校教育の受容と解釈、*京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科学学位申請論文*、査読有、2016、1-227

野口 真理子、アフリカ農村社会における高齢者の生活実践と社会関係：エチオピア南西部アリの事例、*京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科学学位申請論文*、査読有、2016、1-169

有井 晴香、女性の就学選択とライフコース：エチオピア西南部マーレを事例に、*アフリカ研究*、査読有、88 号、1-12

TANAKA, Toshikazu, Contribution of Area Studies Research to Creating a New Culture of Work Footwear in Africa: A Proposal for Introducing *Jika-tabi* to Ethiopian Ox-plough Farmers, *Proceeding 2015 GRM (Global Resource Management) International Conference, Inclusive Innovation for Sustainable Development*, 査読無、2015、233-249

Samuel Tefera Alemu, Re-harmonizing the Changes in Livestock Mobility, Land Use and Sedentarization in Hamer, Southwestern Ethiopia, *京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科学学位申請論文*、査読有、2015、1-172

TANAKA, Toshikazu, Area Studies of Indigenous Plough Agriculture in Africa: The Viability of the Ox-Plough Agricultural System among the Oromo of the Central Highlands of Ethiopia, *Proceedings of the International Workshop "Construction of A Global Platform For The Study of Sustainable Humanosphere"*, 査読無、2015、25-45

NISHIZAKI, Nobuko, "Neoliberal Conservation" in Ethiopia: An Analysis of Current Conflict In and Around Protected Areas and Their Resolution, *African Study Monographs Supplementary Issue*, 査読有、50 巻、2014、191-205

NISHI, Makoto, Risk, Knowledge, and Ethics in the Era of Global Health: HIV Interventions and Local Responses among the Gurage, *African Study*

*Monographs Supplementary Issue*, 査読無、48 巻、2014、31-47

Mamo Hebo & SHIGETA, Masayoshi, Continuity and Change in The Rights of Arsii Oromo Women to Property in West Arsii, Ethiopia, *Nilo-Ethiopian Studies*, 査読有、19 巻、2014 年、1-14  
重田 眞義、木を切ってしまった人びと：アフリカの開発と自然、*生き物文化誌学会 ビオストーリー*、査読無、20 巻、2013、10-13

ITAGAKI, Jumpei, Gender-based Textile-weaving Techniques of the Amhara in Northern Ethiopia, *African Study Monographs Supplementary Issue*, 査読無、46 巻、2013、27-52

田中 利和、農民の足を護る地下足袋ビジネスの構想：エチオピアにおける牛耕の研究から、*京大アフリカセンターの新たな地平 実践的アフリカ地域研究から BOP ビジネスへ*、査読無、2013、14-15

MINAMI, Yoshie & SHIGETA, Masayoshi, Women 's Housewares and Their Usage among the Aari, *African Study Monographs Supplementary Issue*, 査読無、46 巻、2013、155-173

SAGAWA, Toru, Refugee Life as an Extension of Pastoral Life: Survival Strategies of the Gabra Miigo Pastoralists in Southern Ethiopia, *Nilo-Ethiopian Studies*, 査読有、16 巻、2011、13-27

KANEKO, Morie, Open firing techniques as Community-based technology: the case of the Ari pottery making in Southwestern Ethiopia, *Nilo-Ethiopian Studies*, 査読有、17 巻、2012、1-26

[学会発表](計 132 件)

KANEKO, Morie, Local knowledge regarding the production of *Ensete (Ensete ventricosum, Musaceae)* in Ethiopia: With special reference to 30 years of change. *UMS-TUFS Exchange Lecture on Culture and Society of Asia and Africa*, 2016/3/21, コタキナバル (マレーシア)

KANEKO, Morie and SHIGETA, Masayoshi, Local Knowledge as a Mode of Coexistence: The Acceptance of Modern School Education. *the 5<sup>th</sup> African Forum in Addis Ababa: Local Knowledge as 'African Potentials'*, アジスアベバ (エチオピア)

Tadessa Daba and SHIGETA, Masayoshi, Nutritional, Socio-Economical, and Cultural Values of *Teff (Eragrostis tef)* Varieties in Ethiopia, *The 19<sup>th</sup> International Conference of Ethiopian*

*Studies*, 2015/8/26, ワルシャワ(ポーランド)  
KANEKO, Morie and SHIGETA, Masayoshi, Formation and Sharing of Local Knowledge on the Production and Consumption of Fermented *Ensete* (*Ensete Ventricosum*, *Musaceae*) Starch among the Aari People of Southwestern Ethiopia, *The 19<sup>th</sup> International Conference of Ethiopian Studies*, 2015/8/26, ワルシャワ(ポーランド)  
SHIGETA, Masayoshi, Ethnobotanical research on people-plant relationships in Ethiopia: Thirty years of engaged area studies with local people and *Enset* (*Ensete ventricosum*)” *The 19<sup>th</sup> International Conference of Ethiopian Studies*, 2015/8/28, ワルシャワ(ポーランド)  
金子 守恵、重田 眞義, エチオピア西南部オモ系農耕民アリによるエンセーテ (*Ensete ventricosum*) 品種の認知・栽培・利用をめぐる在来知、*第 25 回日本熱帯生態学会年次大会*, 2015/06/21, 京都大学(京都府・京都市)  
SHIGETA, Masayoshi, Unintended positive consequences of local beliefs: Case of folk in-situ conservation and landrace diversity of *Ensete ventricosum* in Ethiopia, *EHESS*, 2015/6/5, パリ(フランス)  
西崎 伸子, エチオピア西南部の農耕民アリによる文化の観光資源化の試み、*第 24 回日本ナイル・エチオピア学会学術大会*, 2015/4/19, 藤女子大学(北海道・札幌市)  
KANEKO, Morie and SHIGETA, Masayoshi, Knowledge on ensete cultivation, processing, and ensete fiber production in Ethiopia [Poster presentation], *14<sup>th</sup> International Conference of Ethnobiology*, 2014/6/1-6/7, プムナン(ブータン)  
重田 眞義, アフリカ在来知と新たなコミュニティ(1)、*日本アフリカ学会第 51 回学術大会*, 2014/5/25, 京都大学(京都府・京都市)  
田中 利一, エチオピア中央高原に暮らすオロモの人びとによる牛耕の潜在力-在来知と新たなコミュニティ(2)、*日本アフリカ学会第 51 回学術大会*, 2014/5/25, 京都大学(京都府・京都市)  
有井 晴香, 出産を待つ家 エチオピア西南部マーレにおける 新たなコミュニティ アフリカ在来知と 新たなコミュニティ(3) 、*日本アフリカ学会第 51 回学術大会*, 2014/5/25, 京都大学(京都府・京都市)  
金子 守恵、高野 紘子, エチオピアにおけるエンセーテ繊維製品をめぐる在来知の実践: アフリカ在来知と新たなコミュニ

ティ(4)、*日本アフリカ学会第 51 回学術大会*, 2014/5/25, 京都大学(京都府・京都市)

西 真如, ケアする女性、声をあげる女性 アフリカ在来知と新たなコミュニティ(5) 、*日本アフリカ学会第 51 回学術大会*, 2014/5/25, 京都大学(京都府・京都市)  
SHIGETA, Masayoshi and KANEKO, Morie, Special Exhibition for Local Knowledge(ZAIRAICHI) on *Ensete(ensete ventricosum)*: From The Activities at South Omo Research Center and Museum, *2013 The First International Conference of Museum in Africa*, 2013/11/2-11/3, アジスアベバ(エチオピア)

金子 守恵、重田 眞義, エンセーテ繊維製品をめぐるあらたなコミュニティの生成: エチオピアにおける在来知の生成と共有の場における実践的地域研究(1)、*日本ナイル・エチオピア学会第 22 回学術大会*, 2013/4/21, 石巻専修大学(宮城県・石巻市)

KANEKO, Morie, “I know how to make pots by myself”: Special reference to local knowledge transmission in Southwestern Ethiopia, *18<sup>th</sup> International Conference of Ethiopian Studies*, 2012/10/29-11/2, ディレダワ(エチオピア)

SHIGETA, Masayoshi, Starch for survival, Fibre for sale: Community-based development using indigenous Ethiopia crop *Ensete ventricosum*, *13<sup>th</sup> Congress of the international Society of Ethnobiology*, 2012/5/22, モンペリエ(フランス)

SHIGETA, Masayoshi, Folk in-situ conservation of *Enset* (*Ensete ventricosum*) in Ethiopia: Challenge by local people, *the Society for Ethnobiology 34th Annual Meeting at Columbus*, 2011/5/6, オハイオ州(アメリカ合衆国)

重田 眞義、金子 守恵、倉谷 禮子、高野 紘子、氷室 友里, エンセーテ繊維製品開発のためのあらたな技法の導入と受容の過程: エチオピア固有の作物エンセーテを活用した持続的農村開発(4)、*日本ナイル・エチオピア学会第 20 回学術大会*, 2011/4/23, 長崎大学(長崎県・長崎市)

[図書](計 48 件)

重田 眞義、伊谷 樹一 編著, 京都大学学術出版会, *争わないための生業実践: 生態資源と人びとの関わり*, 2016, 361

金子 守恵・重田 眞義, 京都大学学術出版会, *共存の作法としての在来知: エチオピア西南部に暮らす農耕民アリと 他*

者との出会い、紛争をおさめる文化(松田 素二、平野(野本)美佐 編) 2016、277-310

西崎 伸子、京都大学学術出版会、新自由主義的保全アプローチと住民参加：エチオピアの野生動物保護区と地域住民間の対立回避の技法、*自然は誰の物か：住民参加型保全の逆説を乗り越える*(山越言・目黒 紀夫・佐藤 哲 編)、2016、211-243

SHIETA, M., H. Mamo & M. Nishi (eds), The Center for African Area Studies, Kyoto University, *African Study Monographs, Supplement Issue No.46 "Livelihood, Development, and Local Knowledge on the Move"*, 2014, 123

西 真如、昭和堂、エチオピアの開発と内発的な民主主義の可能性：メレス政権の20年をふりかえる、*新生アフリカの内発的発展：住民自立と支援*(大林 稔、西川潤、阪本 久美子 編)、2014、56-77

重田 眞義、昭和堂、地域研究、*アフリカ学事典*(日本アフリカ学会 編)、2014、570-583

金子 守恵、六一書房、土器の製作と学習への民族考古学的アプローチ：エチオピアにおける土器のかたちと動作連鎖、*ホモ・サピエンスと旧人2：考古学からみた学習*(西秋 良宏 編)、2014、90-103

西 真如、世界思想社、無力な死者と厄介な生者 エチオピアの葬儀講活動にみる保険・信頼・関与、*リスクの人類学 不確実な世界を生きる*(東 賢太郎、市野 澤潤平、木村 周平、飯田 卓 編)、2014、285-305

金子 守恵、重田 眞義 編、京都大学アフリカ地域研究資料センター、*アフリカにおける社会的な性差を基盤とした知識と技法*、2013、52

重田 眞義、世界思想社、*在来農業、アフリカ社会を学ぶ人のために*(松田 素二 編)、2013、240-253

佐川 徹、昭和堂、大規模開発をととした牧畜民の包摂と排除、*社会的包摂と排除の人類学*(内藤 直樹、山北 輝裕 編)、2013、41-56

伊藤 義将、松香堂書店、*コーヒーの森の民族生態誌：エチオピア南西部高地森林域における人と自然の関係*、2012、130

弘前大学・人文学部・教授  
研究者番号：00263062

金子 守恵 (KANEKO, Morie)  
京都大学・人間・環境学研究所・助教  
研究者番号：10402752

松林 公蔵 (MATSUBAYASHI, Kozo)  
京都大学・東南アジア研究所・教授  
研究者番号：70190494

西 真如 (NISHI, Makoto)  
京都大学・学際融合研究推進センター・准教授  
研究者番号：10444473

伊藤 義将 (ITO, Yoshimasa)  
京都大学・アフリカ地域研究資料センター・助教  
研究者番号：60638188

### (3)連携研究者

柘植 洋一 (TSUGE, Yoichi)  
金沢大学・歴史言語文化学系・教授  
研究者番号：50092276

太田 至 (OHTA, Itaru)  
京都大学・アフリカ地域研究資料センター・教授  
研究者番号：60191938

伊谷 樹一 (ITANI, Juichi)  
京都大学・アフリカ地域研究資料センター・教授  
研究者番号：20232382

西崎 伸子 (NISHIZAKI, Nobuko)  
福島大学・行政政策学類・准教授  
研究者番号：404341647

川井 由夏 (KAWAI, Yuka)  
多摩美術大学・美術学部・准教授  
研究者番号：70307815

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

重田 眞義 (SHIGETA, Masayoshi)

京都大学・アフリカ地域研究資料センター・教授

研究者番号：80215962

### (2)研究分担者

曽我 亨 (SOGA, Toru)